

# 「秋田物部文書」唐松神社・天日宮

●秋田物部家について祭祀線を調べてみた。まずは、饒速日の命が「鳥海山」に降り立った伝説と、唐松岳の頂上に“日の宮”を建て“十種の神宝”を収めたとする「元宮」や「天日宮」から辿ってみた。

## 唐松神社



■天日宮 ←←←143.259km←←←御崎神社→→→143.259km→→→鳥海山山頂（火口の中心）  
唐松山元宮 ←←← 143.259km←←←御崎神社



### ■唐松神社と天日宮

古代史の異説を書いた書物として、『物部文書』という文書の一部が昭和58年（1983年）に初公開された。この文書を一子相伝として代々受け継いできたのが唐松神社の宮司家である物部氏であり、この文書は出羽の地に移った物部氏に関する来歴をはじめ、唐松神社創建にまつわる由来が書かれている。

唐松神社にまつわる伝承で最も古い内容は、物部氏の祖神である饒速日命が秋田と山形の県境にある鳥海山に天磐船に乗って降臨、さらにそこから唐松岳（現在の唐松神社の隣接地）の頂上に“日の宮”を建て、持参した“十種の神宝”を取めたというもの。つまり神武東征よりも前の神代の伝説が残されている。

次に登場するのは、神功皇后とその臣である物部膽咋（饒速日命から数えて9代目）である。363年の



三韓征伐の凱旋時にこの地に寄った神功皇后は唐松岳の“日の宮”に参詣、さらに膽咋は神功皇后より下賜された腹帯を奉納し、「韓（から）国を服（まつ）ろわせた」という意を含んだ“韓服”神社を建てたとされる。天日の宮は、太古より大和にて物部家の氏神として祀られ、延宝 8 年佐竹義処公唐松神社下宮を現在地に建立せる時、唐松山光雲寺別当社として現在地に祀る。現社殿は大正 3 年に改築、崇敬者の寄進による玉石で築き、社殿は剥面神明造り。社殿後ろに古来よりの抱石三体を奉祀して、多くの崇敬をうけている。

そして宮司家の直接の祖先となる物部那加世が、父の物部守屋が敗死した直後、捕鳥男速に匿われてこの地へやって来たのが用明天皇 2 年（587 年）のことである。当地へたどり着いた時、櫃が動かなくなつたため、土地の者から神功皇后の由来を聞いて社殿を修復した。これ以来、物部氏はこのあたりに定住したという（実際には天元 5 年（982 年）に物部氏第 24 代・長文の時に唐松岳に定住し、社殿を建立したことになっている）。その後、源義家が前九年の役の際に、唐松神社の神の化身に助けられたため、社殿を再建して神殿を寄進したという記録も残されている。

時代が下り、延宝 8 年（1680 年）に唐松岳の頂上にあつた社殿を現在地に遷したのが、久保田藩 3 代藩主の佐竹義処である。この時、義処は神社の前を下馬しなかつたために神罰として落馬した。これに怒つた義処は社殿を窪地に当たる土地の底部に建てた（さらに神罰が下つて再度落馬するなどしたらしい）。現在でも唐松神社の拝殿は、他の神社とは異なり、一段低い窪地に置かれている。

祭神/軻遇突命（かぐつち）息気長足姫命 豊宇気姫命 高皇魂命 神皇魂命

境内にあるのが、他に類を見ない建造物として知られる“天日宮（あめひのみや）”である。周囲に濠を巡らせた中央に直径 20m の石積みがあり、その上に社殿が置かれている。これは唐松神社の宮司家である物部氏の邸内社であり、饒速日命が祀られている。一説では『物部文書』に記された様式の建造物を忠実に再現したものであるとされている。（日本伝承大鑑 HP より抜粋）



祭神/饒速日命、登美夜毘売命、玉鉾神

所在地/秋田県大仙市協和境下台 86

## ■唐松神社元宮・唐松山

元々唐松神社は唐松山山頂に鎮座していたのを 1673～1680 年で間に現在地に移したと云われています。唐松山は現在の境内から淀川を挟んだ対岸にあり、後年建てられたと思われる大きな朱塗りの鳥居を潜り山頂に向かいます。中世、唐松山周辺は唐松城として築城されていて、安東氏、小野寺氏、戸沢氏などが攻防を繰り返して天正 15 年には「唐松野合戦」と呼ばれる大きな戦いがありました。現在山頂には後年建てられた山小屋風の社殿があり、元々山頂にあつた社殿は現在の奥殿として秋田県重要文化財に指定されています。



（秋田県：歴史・観光・見所 HP より抜粋）

『物部文書』には、山頂に“日の宮”を建て、持参した“十種の神宝”を収めたと書かれてある。

## ■御崎神社（おさき神社）

竜蛇の尾を曳く如く、尾崎だったのを御崎となった。

平坂に権宮があって海神である神降石（兎置島）を祀る神事があった。即ちこの神の発祥の神跡である。嵯峨天皇の弘仁中（810～823、奈良）云々の古記録もあって古い社であることを証する。

明治 2 年日本武尊を合祀して社号を日高見神社となし、同 8 年村社に、同 12 年郷社に列格、同 40 年 3 月幣帛供進社に指定された。昭和 46 年 11 月歴史と伝統を重じて「御崎神社」と改称した。

主祭神/大海津見大神 宮城県気仙沼市唐桑町字崎浜 7 宮城県神社庁 HP より抜粋



## ■鳥海山頂・大物忌神社

鳥海山頂の本社と、麓の吹浦（ふくら）と蕨岡の 2 か所の口之宮（里宮）の総称として大物忌神社と称する。出羽富士、鳥海富士とも呼ばれる鳥海山を神体山とする。当社は鳥海山の山岳信仰の中心。鳥海山は、古代には国家の守護神として、また古代末期からは出羽国における山岳信仰の中心として現在の山形県庄内地方や秋田県由利郡および横手盆地の諸地域など周辺一帯の崇敬を集め、特に近世以降は農耕神として信仰されてきた。

祭神/大物忌大神

主祭神。記紀には登場しない神で、謎が多い。『神祇志料』や『大日本国一宮記』では、大物忌大神と倉稲魂命が同一視されている。

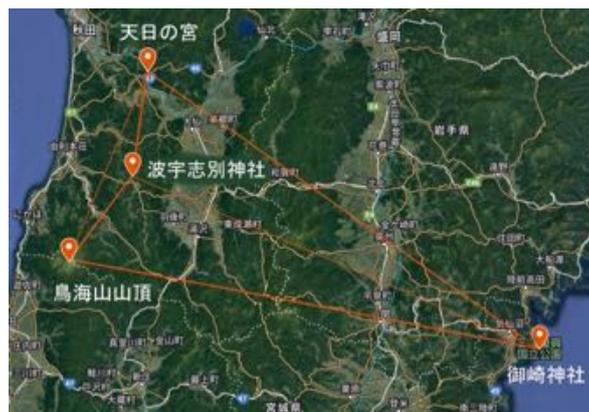
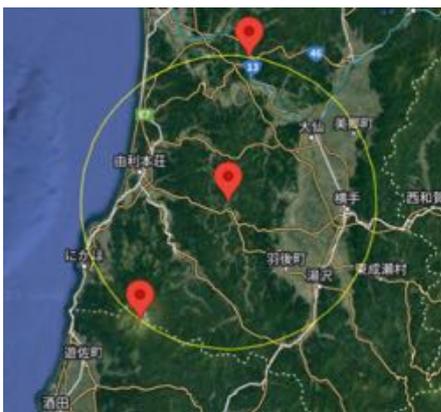
豊受姫命・月読命（吹浦口之宮）

（Wikipedia より抜粋）

唐松神社にまつわる伝承では、物部氏の祖神である饒速日命が秋田と山形の県境にある鳥海山に天磐船に乗って降臨したとされる。（日本伝承大鑑より抜粋）

●次に天日宮と鳥海山の間センターラインを引いて神社を探すと保呂羽山本宮 波宇志別神社（秋田県由利本荘市）が見つかったのでさっそくコンパスを当てると鳥海山は大物忌神社山頂本殿裏の岩山にあたった。

■鳥海山大物忌神社山頂本殿 ←←← 31.845km ←←← 波宇志別神社 →→→ 31.845km →→→ 天日の宮



## ■保呂羽山本宮 波宇志別神社（ほうしわけじんじゃ）

往昔天平勝宝元年（749年）現宮司家先祖大宮四郎茂遠信仰に仍創造到し、亦嘉祥3年に至り宮造營成してより数百年に及ぶ。

時の御領主本城豊前守殿下村代官柳目伊勢守殿御扱頃より御拝社に相成り、御修覆等有之候処、其後旧本莊領主六郷政乗殿御扱の時御拝社に相成り、寛永15年田地諸領御放免に相成り、御修覆被下置、其後御改地、旧矢嶋生駒殿領地と相成り、其後生駒玄番殿より、元禄6年諸領御放免に相成御修覆有之、矢嶋御領にては五社崇敬の一社にして献額致罷在候。（大正12年4月21日秋田県神社明細帳記）

祭神/大己貴命（おおなむちのみこと）少彦名命（すくなひこなのみこと）

由利本莊市東由利法内字法内1

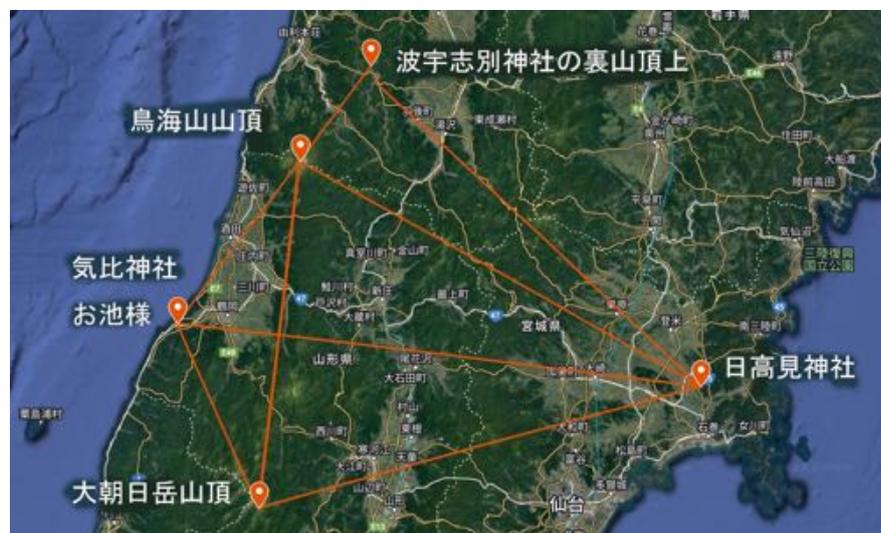


●しかし、よく考えると現在の天日宮は延宝8年（1680年）からの歴史である。唐松神社移転の際に、保呂羽山の山岳信仰とつなげるために波宇志別神社と結び、さらに鳥海山に祀られた大物忌神社とつなぎ直して神気を集めるしくみにリニューアルしたのだろうか。

## 大朝日岳と鳥海山

●次に、山形県の朝日連峰主峰「大朝日岳」は、出雲族の太陽遥拝所と云われているので、鳥海山と大朝日岳の間にはどんな神社があるか調べてみた。

すると…



■大朝日岳山頂←←← 54.306 km←←←気比神社お池様→→→54.306 km→→→鳥海山頂火口

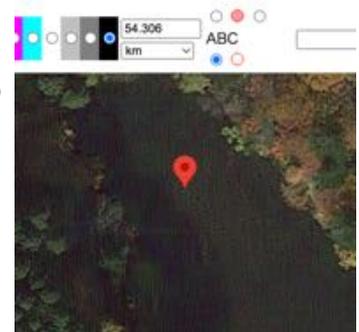
※大物忌神社本殿ともわずか 20m 違い。

■大朝日岳山頂←←← 122.890km ←←←日高見神社→→→122.890km →→→鳥海山頂火口

■ 日高見神社→→→122.890km →→→波宇志別神社の裏山頂上

### ■気比神社・お池様

三瀬 気比神社は、敦賀 気比神宮の主神である伊奢沙別命（いざさわけのみこと）ではなく、同じく食物の神である保食大神（うけもちのおおかみ）を主神としています。また、その御霊が、社叢の一番奥に佇む「お池様」と呼ばれる神秘的な池のほとりに祀られている事から、この地の古来の信仰が「森」や「池」を対象とした自然崇拝に基づくものであった事、そこに、この地の神道のルーツがある事が伺われます。



三瀬 気比神社の具体的な創建年代については、江戸時代まで記録しているものが無く明らかでは無いものの、明治以降に制作されたと思われる「同社由緒書」によると、『716年（霊亀2年）に、敦賀国 気比神宮のある越前の国からこの周辺に柵戸移住してきた者たちが、敦賀 気比神宮の分霊を祀ったものではないかと考えられる・・・』と、されています。それが、昭和初期までの有力説でありましたが、近年の新たな調査結果から、もっと後の、石塚（いしづか）一族が三瀬に落居した1337年（延元2年）頃の創建ではないかとの見解もあります。



### ■大朝日岳（朝日連峰）

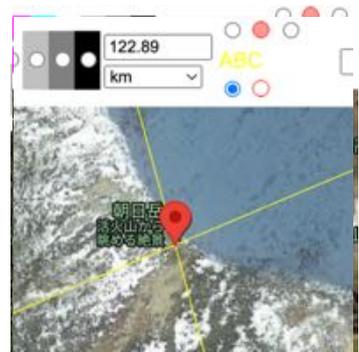
磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。 山形県西村山郡朝日町。



●なんと、以前宿泊したことのあるユースホステルの裏手にある気比神社。神社本殿では少しずれるので、由緒に書いてあったお池にポイントを置いたら鳥海山も大朝日岳もほぼピンポイントにつながった。お池様の瀬織津姫あるいは鳥海山・大朝日岳の神々に何か宇気比（占い）をするための神社だったのだろうか。次に太平洋側を探してみると石巻の日高見神社とぶつかった。

### ■日高見神社

古来この地方に伊勢津彦尊が居住しており、高皇産霊神の子孫天日別尊に亡ぼされる。尊はそれを皇孫に奉ったとあり、神武天皇の御世に天日



別尊を祀って日高見宮としたと伝えられる。景行天皇 25 年、勅を奉じて武内宿禰が北陸及び東国を巡察、同 27 年帰朝して奏言するに「東夷に日高見の国あり、人勇敢にして土地沃穰なり撃って取る可し」とあり、同 40 年、皇子日本武尊は上総から海路陸奥に入り竹水門（七ヶ浜塩釜港附近）から日高見の国に到り賊を平定したとされている。この時、尊は武運を祈願し、皇祖天照大神を祀って日高見神社が建立されたと伝えられる。続日本記には、宝亀 11 年（780）「百済王俊哲等が賊に囲まれ桃生白河等の郡神十一社に祈る」の項に日高見神社の社名がありそれが初見とされている。桓武天皇の延暦 21 年（802）正五位上勲五等に叙し、続いて三代実録の貞観元年（859）「陸奥国日高見水神に従四位下を授く」とあるので、往古は北上川の水神を祀った社とも言われている。第 70 代後冷泉天皇の康平暦年中（1058～1069）源義家が安倍貞任討伐（前 9 年の役）の折、神殿を造営して日本武尊、武内宿禰を併祀し、祭田を寄進したとされている。社殿左右に祀る日本武尊、武内宿禰尊の二神像は寛永年間に造られたものである。安永風土記には「往年社地の東南を穿ちて神銚三支を得た」とあり、嘉永 3 年（1849）には勾玉三顆を発見している。天正 19 年（1591）山内首藤、葛西の合戦の折り、兵火に罹って社殿、社蔵文書の一切を消失、宝永年間（1704～1710）に再建されている。当社は延喜 5 年（905）延喜式神明帳に登載されている延喜式内社で、奥州百座、桃生郡六座のうちの一社である。

祭神/天日別尊、天照大神、日本武尊、武内宿禰尊

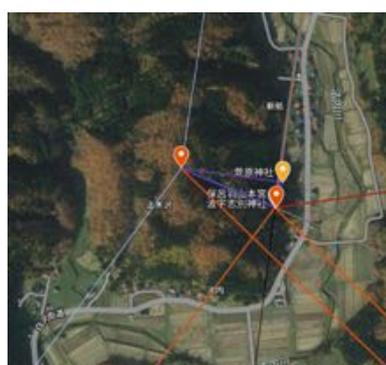
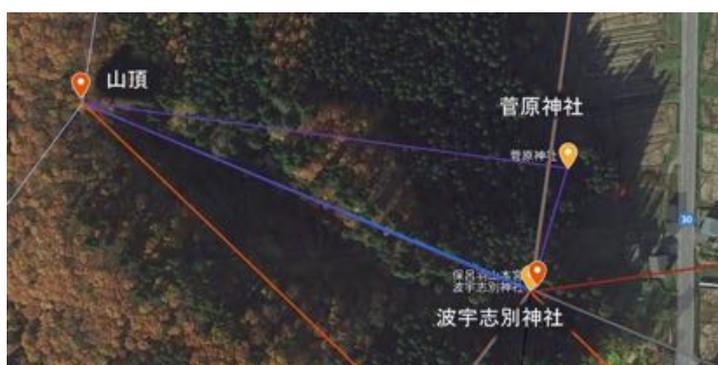
宮城県石巻市桃生町太田字拾貫壱番-73

●気比神社お池様からの円周線を残して大朝日岳山頂に合わせると、鳥海山はやはり本殿から 300m 程離れた位置に交わる。本来はこのあたりを山頂と見なしていたのではないだろうか。

●太平洋側のしくみは武神が多く大和朝廷側の支配のための祭祀線が多い。期待しないで探してみると、日高見神社がぶつかってきた。日高見なのでときめいたが祭神を見たらやはり日本武尊が建立していた。由緒を見ると、天日分命に侵略され東方へ逃げてきた歴史を持つ伊勢の王伊勢津彦がこの地で滅ぼされていた。さらに武内宿禰が北陸及び東国を「東夷に日高見の国あり、人勇敢にして土地沃穰なり撃って取る可し」と奏言。出雲族の末裔の私としては実に腹立たしい。しかも私の先祖の安倍貞任討伐の際に源義家が造営したと。出雲族の聖地大朝日岳と鳥海山を押しえつめるためのしくみか…。



●そして、もう 1ヶ所円周上にぶつかって驚いた場所がある。それは先に紹介した唐松神社とつながる保呂羽山本宮 波宇志別神社のすぐ裏山である。地形図を見てわかったが、小さな山の頂上にあたる。この神社の奥の院的な聖地かどうかを調べてみた。



■菅原神社 ←----- 263m -----> 山頂 ←----- 263m -----> 保呂羽山本宮 波宇志別神社

■菅原神社 詳細不明 秋田県由利本荘市東由利法内新処 3 0

●波宇志別神社と菅原神社がこの山の山頂に対して狛犬的に前で守っていた。山頂になにかあることは確か。残念ながら菅原神社の情報は探せなかった。菅原道真公を祀るので出雲系である。西側の谷と東南にクランクした道路を見ていると、この山がピラミッドに見えてくる。



●波宇志別神社との繋がりがもう一つ見つかったので記録しておく。



■唐松神社池 ←-- 31.81km --> 波宇志別神社 ←-- 31.81km --> 塩湯彦神社（横手市）

### ■塩湯彦神社

延喜式内社、出羽国九座の一神明帳記載神社。650 年前一遍上人が再建したが、其の後荒廢の形となった。正徳年間佐竹藩主義格、茂木頼母に命じ保呂羽山神主、大友永貞同福命（よしのぶ）父子と共に宮地を踏査し旧跡を尋ね再興してより、明治に至るが、明治 4 年社領返上（30 石）明治 4 年火災に罹り、その後再建したが浄財不足により拝殿仮建立であった。



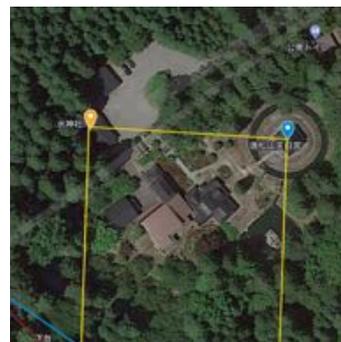
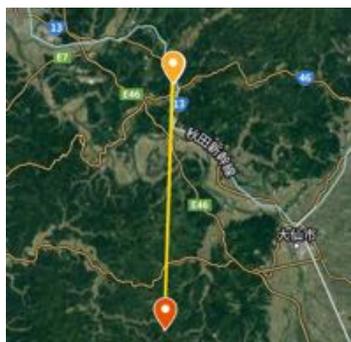
●唐松神社と天日宮の間に円周ラインが通り釈然としなかったが、池の島にぴったり乗ることがわかった。あの池は真ん中の島に石鉾が立ち「浮島的な祭祀場だな」と思ったことを思い出した。



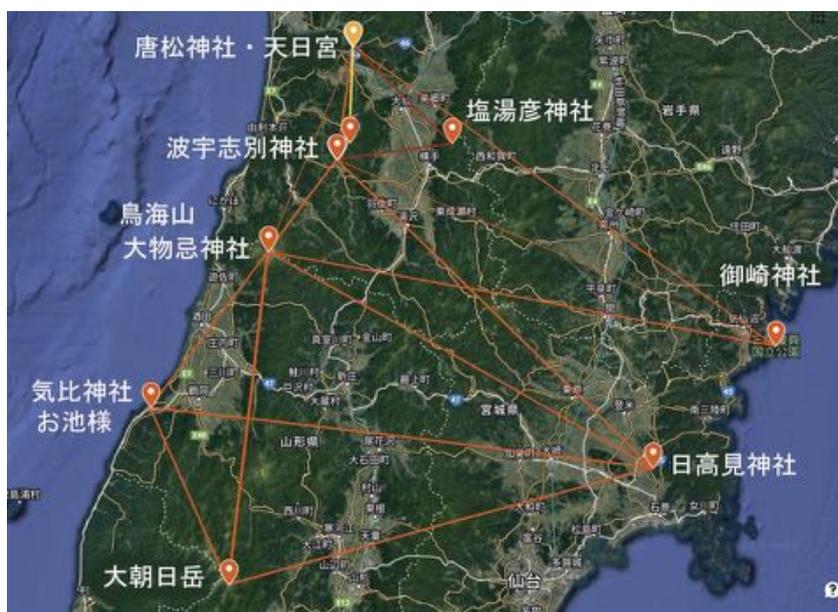
●ところで本宮はほとんどネット情報がないが、保呂羽山山頂の波宇志別神社は多くの人が紹介しており、歴史があったことがうかがえる。しかし祭祀線はつながらない。ここはダミー的な場所なのだろうか。唯一見つかったのは境内社の水神社。境内に同距離神を置いて山頂の波宇志別神社の神気をピンポイントで引き込むための祭祀線だと思う。たしか法隆寺の五重の塔も同じしくみがあった。

■水神社（唐松神社境内社） ←--- 26.67km ---→ 保呂羽山山頂 波宇志別神社 ←--- 26.67km ---→ 天日宮

■水神社（唐松神社境内社） 詳細不明



●秋田物部家が山や島や池など出雲系の聖地を祭祀線でつなげているのがわかった。石巻の日高見神社も対極の気比神社のお池様が出雲系であるから、元々は出雲族の聖地を大和族がすりかえたのかもしれない。境内社や地形を見てこようと思っている。秋田物部家が鳥海山を大切な聖地と見なしていた裏付けは得られた。



●岩手一関の坂上田村麻呂の祭祀線調べをしていて、偶然守屋氏の神社と繋がったのでここに追記しておく。



■勝軍山神社 →→→ 131.56km →→→ 大朝日岳山頂 ←←← 131.56km ←←← 熊野神社

### ■勝軍山神社

羽後仙北郡外小友村鎮座勝軍山神社は、往時摩利支尊天と称していた。古記によれば、天平宝字元年丁酉の年（757年）、八沢木の神官守屋氏（物部系類）の創設であって、今から1250年前の古社である。

後三年の役に、八幡太郎義家公がこの社に参籠して、勝利を祈ったところ、御神威忽ち顕れて、酋長武衡どもを亡ぼすことができたので、山の名を勝軍山と称するようになった。

祭神は、正徳4年鹿島大社から武甕槌大神、香取大社から経津主大神、出雲大社から八千鎰大神の三神を分祀し、下社は宇迦御魂大神と妻神を祀って、俗に黒稻荷、白稻荷と称していた。

殊に当社は、旧藩主佐竹公代々の祈願所であって、正徳4年（1714年）の社殿再建の棟札には、『領主源佐竹義処公武運長久攸神主守屋遠江守謹白』とあり、いかに佐竹家代々の崇敬が篤かったかを見ることができる。

古くから勝ち運の神として、勝利を得ようとする祈願者が最も多く、社殿は佐藤市左衛門家代々の造営であり、旧神官守屋宅が、嘉永6年火災に遭い、同社の宝物の多くが烏有に帰ってしまったのは、誠に惜しみても余りあるものがあります。秋田県大仙市南外深沢

### ■熊野神社

当神社の草創は第四十代天武天皇の御代、白鳳元年壬申の7月7日役の小角、産子の泣き声を聞いて泣子沢と名づけ、熊野神社を奉安する。現在鳴見沢という。峯の内に穴二つあり、日像、月像を備え、明永山と名づけた。弘安9年丙戌の8月一遍上人巡国のとき、役の行者の仙跡を尋ねて再建。亦秋田城之介成綱の代本殿7間四面、拝殿12間に建号を明永山神宮寺、遍照院と言ひ三十六院の坊司があった。観応元年足利家より秋田城之介泰長をもって、御朱印、御書判御証文に、吉田、飯詰、八幡三ヶ所より知行三千石拝領、雄勝、平鹿、仙北へ熊野牛王配札、舞獅子、回村の証文、三十六坊へ拝領。天文21

年 6 月小野寺合戦の時兵火にて神社、僧坊ことごとく焼失。延宝 8 年明永山に移転再建。寛政 12 年元鳴見沢に移転。天保 11 年丸山（現在地）に移転。佐竹時代に入ってから、従前通り配札、舞獅子、回村の永久御免の許可があった。明治 6 年村社に列した。 秋田県横手市明永町 1 0 - 1

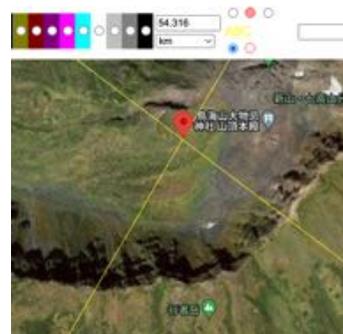
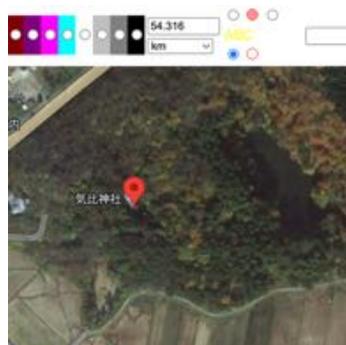
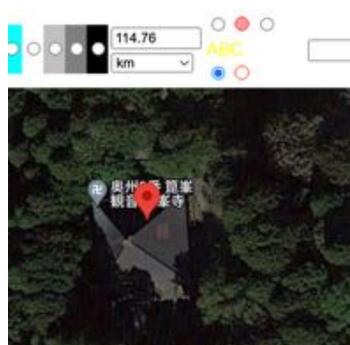
## 坂上田村麻呂

●ほかに日高見神社に代わる出雲系聖地があったのではないだろうか、もう一度探していたら、すぐ近くに坂上田村麻呂の創建で有名な篁峯寺を見つけた。これは調べずにはいられない。すると…



■大朝日岳山頂 →→→ 114.760km →→→ 篁峯寺 ←←← 114.760km ←←← 鳥海山山頂（火口の中心）。

■大朝日岳山頂 →→→ 54.316 km →→→ 気比神社 本殿 ←←← 54.316 km ←←← 鳥海山山頂



### ■篁峯寺

山号は無夷山（むいさん）。本尊は十一面観世音菩薩。別称は篁岳観音（ののだけかんのん）。篁岳山の山頂にあり、奥州三十三観音の第九番札所に数えられている。大同 2 年（807 年）に坂上田村麻呂の創建と伝えられ、当初霧岳山正福寺と称していたが、嘉祥 2 年（849 年）に円仁が中興し、無夷山篁峯寺と改称した。奥州七観音の 1 つにも数えられた。

『宮城の伝説』（角川書店）

征夷大將軍坂上田村麻呂の東征のとき、牧山で賊將大岳丸を退治し、死体を首・胴・手足に分け、牧山・富山・篁岳の三ヶ所に埋葬し、そこに観音堂を建立した。そして、牧山には魔鬼(まぎ)山寺を建立した。また、田村



麻呂が退治したのは、石巻地方にいた魔鬼一族の酋長の妻、魔鬼女(まきめ)であるともいう。  
 (以下、東北縄文文化研究会 HP より抜粋)

宮城県の牧山 (魔鬼山)・富山・**篋岳(ののだけ)**の三山には、観音堂が建立(跡地だけのもある)されており、「奥州三観音」と呼ばれている。(左上から牧山観音像・富山観音堂・篋岳観音堂)

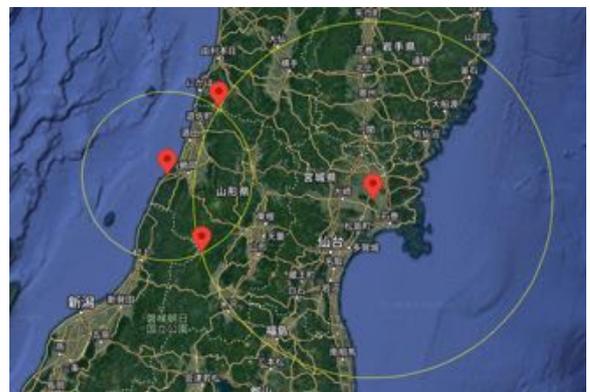
田村麻呂が退治した鬼の体を分け、それぞれに埋葬しているとのことだが、富山 (松島町) の鬼は『大竹丸』、**篋岳 (湧谷町) の鬼は『高丸』**、牧山 (石巻市) の鬼は『魔鬼女』と、鬼の名前が錯綜している。宮城県遠田郡涌谷町篋岳の無夷山「篋峯寺」の伝承では、蝦夷征伐の時、田村麻呂は敵味方双方の戦死者を葬った上に観音堂を建てたのが寺院の始まりだと案内書に記している。

ただし、この地で黄金が採集されたことに留意を要する。

筆者は膨大に史料に目を通した結果、大竹丸は安倍氏だと確信している。

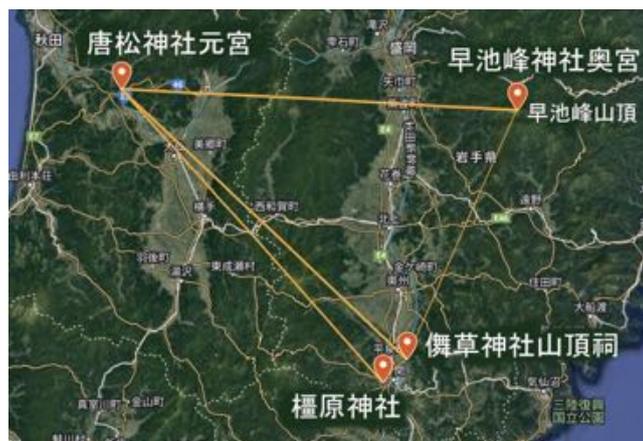
宮城県遠田郡涌谷町篋岳神楽岡 1

●見事に大朝日岳と鳥海山につながった。気比神社は池ではなく神社本殿がぶつかった。坂上田村麻呂が退治した大岳丸は蝦夷の首長らしい。蝦夷と最後に和合しようと働いた大和族の坂上田村麻呂が施した祭祀線だが、本尊は十一面観音で白山菊理姫でもあるので出雲系だと思う。早池峰山では十一面観音が瀬織津姫になっている。



## 早池峰山

●そういえば、瀬織津姫を祀る早池峰山が近くにあるのに調べてなかった。  
 すると、元宮としっかり繋がっていた。



■ 舞草神社 山頂祠 →→→ 100.605km →→→ 唐松山元宮 ←←← 100.605km ←←← 早池峰神社奥宮  
 ■ 唐松山元宮 ←←← 100.605km ←←← 榎原神社

## ■早池峰神社

大同元年（806）、来内村の獵師藤藏が山中で十一面観音の尊像に遭遇。感銘して、後に早池峰山山頂に奥宮を建立した。その後、藤藏は普賢坊と名を変え、現在地には新山宮を建立した。齋衡年中（854～857）、慈覚大師が当地に宮寺を建立し、山頂の霊池に因んで妙泉寺と名づけ、新山宮を神宮とした。明治の神仏分離により、早池峰神社と改称した。当地（遠野）と早池峰山との間には、前薬師と呼ばれる山があり、直接、早池峰山の全容を見ることはできない。



以下、早池峰神社（遠野市）社頭案内より

霊峰早池峰の山霊を祀り併せて早池峰山と共に遠野三山 とよばれる石神、六角牛の山霊を祀る。草創は大同元年（西紀八〇七）三月八日獵師藤藏（後に始閣と定む）が早池峰山頂に於て 権現垂跡の霊容を拝して発心、山道を 拓いてその年の六月十八日山頂に七尺有余の宮を創建して祀ったのがこの社の始まりである。山頂の社は本宮と称し、承和十四年（西紀八四七）六月十八日藤藏薙髪して普賢坊の長子長円坊が本宮の傍に新たに建立した若宮 と共に現在この早池峯神社の奥宮として祀る。

嘉祥年間天台の高僧慈覚大師奥州巡歴の途次この地に至り宮寺妙泉寺を創建して坊を大黒坊と称し不動三尊・大黒一尊各々本尊を別に新山宮と号し三間四面の宮を建立し早池峯大権現を祀り、脇士として薬師・虚空蔵菩薩を 併祀。坊には高弟持福院を住職とし神宮には長円坊を別 当として神徒として仕うべきを命じた。祭祀は神仏混淆 で盛大に行われて信仰は県外に及び阿曾沼親綱の時代に 百二十石その後南部直栄より六十五石計二百石封祿寄進 され明治維新に至り排仏棄釈により妙泉寺は廃され新山 宮改め早池峯神社として現在に至った。その間寛治年中 妙泉寺の宗派が天台宗から真言宗にかわり文治五年火災 にて全焼する等の変革を経て現在の社殿は享保三年の建 築で東西四十三尺一寸、南北三十三尺七寸有り用材は主 として檜・栗等を使用している。その他神楽殿、神門、 黒門、社務所等の備有り、神門は文化年中の建立でもと 仁王門と称し仁王を安置していたが、妙泉寺の廃寺と共 に土渕の仏師田中円吉作の随神像に替えた。昔は古例として年七回の祭儀を執り行ったと伝えられる。今は年一回旧暦六月十八日に例祭を行っているが近くの滝川に神 輿を渡御して川の水を濯ぐ行事は京都の祇園御霊会の神 輿洗いの行事と同じく上代に於け 祓式を存じ他に余り例 が無いと云われている。

（玄松子の記録 HP より抜粋）

祭神/瀬織津姫命

## ■儼草神社 山頂祠

養老二年（718）白山妙理権現が創建と伝えられ、仁寿二年（852）七月神階従五位下授かると「文徳実録」に記載されており、延長五年（927）十二月二十六日奏請された延喜式神名帳に陸奥国一百座内磐井郡二座に名を連ね隣接の配志和神社と共に其の社格を誇る存在である。

一方、大同二年（807）征夷大將軍坂上田村麻呂東夷征伐の祈願成就の礼として、境内の一角に観音建立。降って平泉藤原三衡これに深く帰依し、堂塔貢米を寄進し二十四坊を数うる吉祥山東城寺なる一大寺院を構築したが天正二年（1574）二月二十七日、更に文禄元年（1592）三月十二日の二度の火災に遭い



一山の堂宇僧坊、伝記古来の書物焼失。慶長六年（1601）吉祥山東城寺再建。文化八年（1811）九月仁王門（隨身門）建立。東城寺と併存し、地方民の篤い信仰を集めていたものと思われる。

日本刀のルーツとして注目される「舞草刀」は、この付近を拠点に作られたと思われる。安永風土記に「往古、舞草と申す鍛冶住居仕り候」と書かれ、山腹、山麓には金属鍛冶にかかわる地名が多く残っている。「舞草刀」とは日本刀の祖型といわれる実戦型の反りのある刀で、源義家ら武士団、京都の近衛兵などに「奥州刀」として愛用されたといわれている。

祭神/倉稻之魂命 伊邪那岐尊 熊野大神 白山比咩神  
岩手県一関市舞川字大平5番地（岩手県神道青年会 HP より抜粋）

### ■ 檀原神社

祭神/神武天皇・須佐男命 由緒不詳  
境内社/八雲神社（相殿）、三峰神社、子守神社、春日社  
旧社格/村社  
岩手県一関市赤荻清水9-1



● 舞草神社は坂上田村麻呂が観音を建立しているが、元は白山権現（白山比咩神）であり熊野大神も祀ってある。倉稻之魂命も近頃は瀬織津姫説が浮上している。檀原神社は、由緒不明だが、立派な社殿で境内社も多く、きっと歴史があるのだと思う。祭神に神武天皇や素戔鳴、日本武尊が関わる三峰、藤原氏の春日と物々しい神々が連ねているが、唯一出雲系は、水神の子守神社がある。地名も清水であり、きっと元々はこの水神（瀬織津姫系）を祀っていた出雲系聖地だったのだろう。

太平洋側に、日本海側の出雲系聖地を抑えるように武神が祀られた神社が多いと常々思っていたが、どこも本来は出雲系聖地に大和族系の神を乗せた歴史なのかもしれない。

なお、青森県の神社とのつながりも探してみたが見つからなかった。かつて大和で饒速日命に仕えていた長髓彦の子孫たちアラハバキ族との関わりはどうだったのだろう？

## 大沼浮島

●これで終わろうと思ったが、私が考える出雲族の東北最大聖地の大沼浮島（山形県朝日町）の出島と唐松山元宮が繋がらないのが疑問であり残念だったので、もう一度地図をなるべく低空飛行するように確認してみた。

すると、ラーメンが美味しい石巻のやしろ食堂が目についた。「ここはたしか和瀨神社!」と思い慌ててズームすると、やはり和瀨神社が現れた。写真だと 5m ずれるが、地図に切り替えると本殿真上にはぼっちり円周ラインが通る。良かった。それにしても式内社なのに、やしろ食堂より 4 回も+ボタンをクリックしないと現れないとは…。隠されているのか?とってしまう。



■大沼浮島の弁天島→→→143.09km →→→ 唐松神社元宮 ←←← 143.09km ←←← 和瀨神社

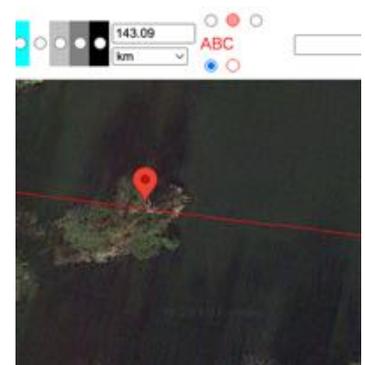
### ■大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

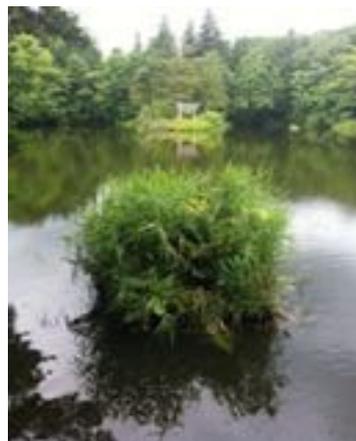
白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりて梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。

山形県西村山郡朝日町大沼

●浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れしてきたのを見つけたのだから、すでに



大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大沼を拠点にしていた朝日嶽修験の大朝日岳にも大富観音が祀られていた。役の小角が稲荷神を祀ったとすれば伏見稲荷よりも古くなる。調べると 730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に元々の弁財天や龍神（瀬織津姫系）を稲荷神にすり替えたのかもしれない。とはいえ、近頃は宇迦之御魂神も瀬織津姫だったという考え方が浮上しているから隠して祀っていたことになるのだろうか。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天（瀬織津姫）を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。大沼浮島は、全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、天日宮のように多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫（瀬織津姫）が祀られているのも本来はこの分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。



浮島の奥が出島



ピラミダルな山容の大朝日岳

### ■和渕神社

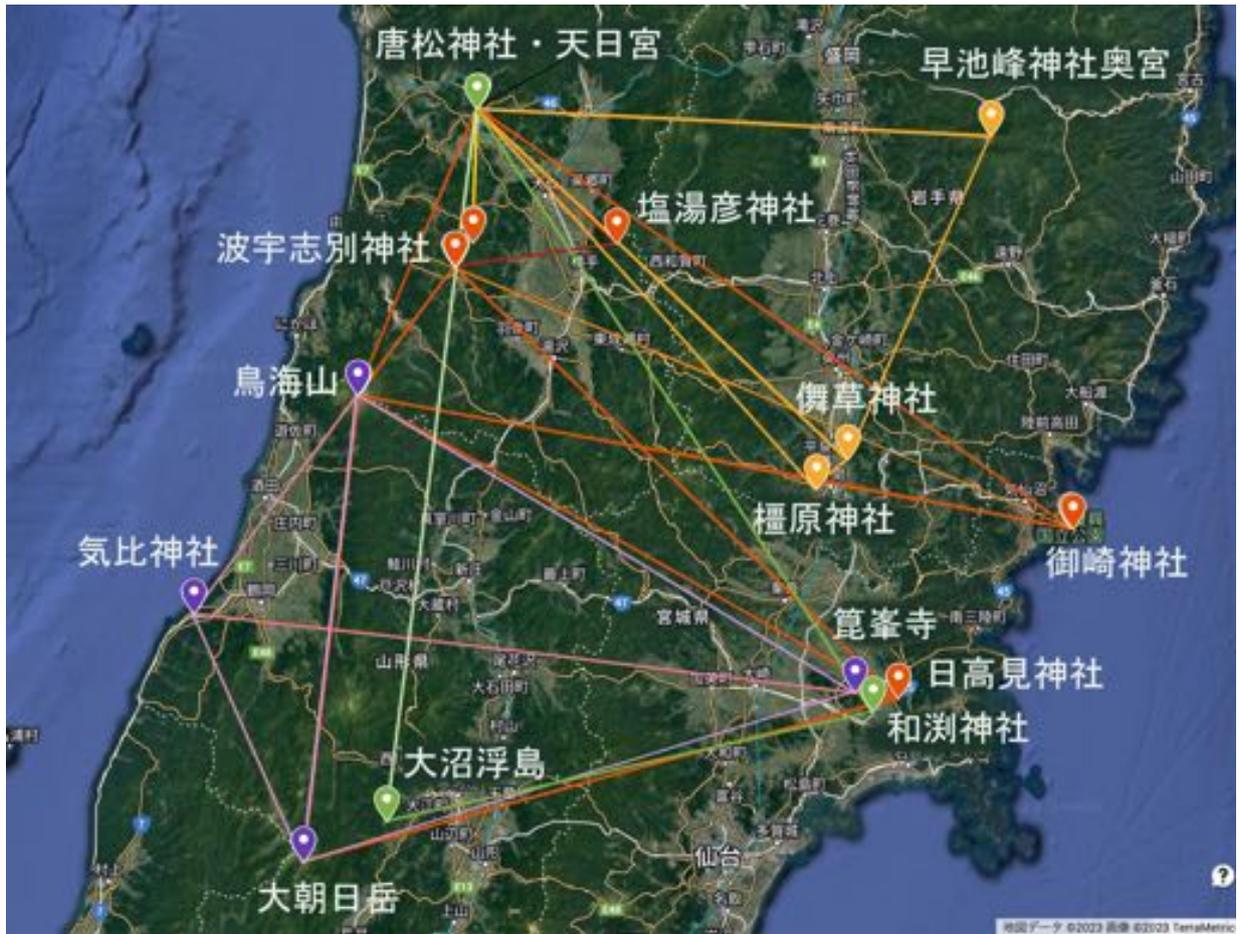
式内社。香取伊豆御子神社。風土記御用書上げによると、坂上田村麿將軍大同二年（806）、遠田郡篋岳に、十一面観音を建立のあり、和渕山本宮に「木船明神」を勧請したのが当社のはじまり。また、一説には大古、香取神社の神船が、常陸より八重の塩路に乗り牡鹿郡和渕山の西辺（船島）に着き、その東方に船を留め（船澤）、山頂の船澤山 猿霊峠（樹霊峠）に宮柱を立て祭祀したとも伝えられる。後に笈入の八雲・紫・愛宕の三社を合祀し、和渕、前谷地、北村三村の鎮守となった。

祭神/経津主神（ふつぬしのかみ）、武甕槌神、大己貴神、龍神  
石巻市和渕字和渕町 1

●和渕神社ではイザナギイザナミが作った大八州に住み着いた鬼をやっつける内容の和渕法印神楽が伝わっている。鬼は出雲族であり蝦夷。和渕神社は大朝日岳と早池峰山を両極に持ち出雲の大聖地を抑えつける役割を持っていると思う。詳しくはリンクしている「石巻 零羊崎神社・和渕神社の役割」の PDF をご覧下さい。



ただ、大己貴神（大国主）や 龍神（瀬織津姫）も祀っているので、やはり元々は出雲系の神社だったりかもしれない。



2023.9.9 記